

令和2年度の秋の大法要でございます。本来ですと大勢ご参拝を頂いて、させて頂く事になっておりましたけれども、残念ながら規模を縮小しての大法要になってしまいました。皆さまに大変なご心配をおかけ致しまして、心よりお詫び申し上げます。申し訳ありません。

しかし、今日は春の天気のような素晴らしいご順序も頂きました。そういう中で、任命式もさせて頂きました。わざわざ、コロナ禍の中で、遠路九州から任命の方たちがお集まり頂きました。大変な思いを持ってこの聖地に来られたかと思えます。この場をお借りして心より感謝を申し上げます。

「秋の大法要」ということで、昔は大恩師さまの祥月命日の法要でありました。それがいろいろな因縁のご順序で名前も変わりましたが、しかし根底にあるものは変わりません。今日参拝をしている方も、また今日おいでになっていらっしゃる妙智會の信者さんも、大恩師さまの根底にある大きな大きなお慈悲を我々はしっかり受け止めて、忍善の道を歩めというご指導を今日、もう一度、しっかりと受け止めて頂きたいと思えます。

今日は大恩師さま、会主さま、そして大導師さま。お三方のご法号についてお話します。

お三方のご法号は共通した深い意味のある字があるのです。

お三方の共通した意味深き字というのは『光』です。これが共通した事なのです。

この光というもの『光明』を照らす。これも会主さまがよく開教当初からお使いになったお言葉ですが、光を照らす。特にこの

時期、大切な事なのです。

妙智會員は、光り輝く存在でなければなりません。御三方のように、社会を、家庭を、人を照らす存在でなければいけないという事です。私たちの使命は、人に、世の中に光をあてること。周りを暗くしては意味がないのです。

大恩師さまをご存知の方にお話を聴きますと「声、姿、お顔、ふるまい、いつも光り輝いていて、素晴らしい方でした。難しいお話はされなかった。本当にやさしく私たちに指導して下さいました」とお話をされていました。

会主さまも光でございます。正直、強いお顔をされている時が多々ありましたけれど、しかしですね、教団の中でも家庭の中でも、会主さまの笑顔は本当に光り輝いていたのです。

私は小さい時に会主さまに連れられて、いろんなご教団の祭典にお邪魔させて頂いた時も、呼んだ側の教団の方たちが異口同音におっしゃったのは、「会主さまが車から降り立つと明るくなります。今日は曇り空なのにファーッと明るくなりました。暖かくなりました」そのようにおっしゃった方がほとんどでございました。

もちろん皆さんからすれば、先達の信者さん、会主さまが来られると明るくて光り輝いて暖かくなるから、もう皆さんが集まってくる。呼ばなくたって来ちゃう。少しでもその光、暖かさに触れ合いたい、手を差し伸べる。大恩師さまも会主さまも光り輝いていた方です。

そして九州の方はよくご存知の大導師さま。皆さん覚えてらっしゃると思いますけど、もう来られるとその場が明るくなる。そういうお力があり、お三方とも光輝いている方たちでした。

今日このようなご法号の意味を申し上げる中で、我々はその弟子として、私も含め、コロナ禍の中だからこそ、明るいものを作っていかなければなりません。暗くなったら意味ないのです。

今、コロナが蔓延し、失業者が増え、世界中が暗くなっている中、妙智會の我々は教えを信じ、行じ、保ち、そして、明るく生きていく、そしてその明るさを、周りに施す。これが妙智會の大きな使命である、このように思っています。

こういう状況下の中で、暗くなる原因がたくさんありますが、必ずひとりひとりが明るくなって修行していけば、必ずご順序を頂ける、私はそう信じております。

春の大法要が自主参拝になり、そして開教記念式典もネット配信という形になり、そして、今日もこういう形になった。その合間合間で、皆さんがしっかりと修行をしてきたのだろうか。

いろんな事が起きても、起きた事自体が大変なのではなく、その『間(あいだ)』が大切だという事を、もう一度受け止めて下さい。

とにかく修行するのです。修行する事で明るくなるのです。私はもう無理ですって言わない事です。そんな暗い姿を、お三方にお見せしては申し訳がありません。

ぜひ、今から、今日の天候のように光り輝いて暖かい皆さんになって下さい。もう、昨日までの事は懺悔させて頂けばいいのです。半歩でも前に進めばいい。下がっちゃだめです。暗くなってはだめ。明るくなる。全部私が背負うから。皆さんは修行する人たち。

ぜひ、明るく前向きに今日からまたご修行をお願い致します。

本当に遠い所から、こういう状況の中でお越し頂いた皆さんありがとうございました。

※ FAX 送信の繰り返しで本書が見にくい場合、事務局にご連絡頂ければお送り致します。